

国道205号 深谷橋ランプ橋上部工を見学 PCの製作から施工まで 一連の流れを体感

佐賀県立鳥栖工業高校による現場見学会が15日、佐世保市の国道205号・深谷橋ランプ橋上部工工事現場で行われた。床版の横組工が進む現場を見学した土木科の1年生40人は、入学から数カ月にも関わらず、コンクリート養生の仕方や現在の作業に必要な人員数など、現場代理人であるオリエンタル白石㈱の栗本英生氏らに次々と質問していた。

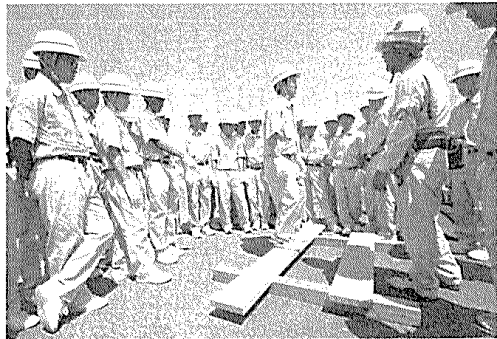
深谷橋は延長147mのPC4径間連結構ポストテンション方式T桁橋。工場で5分割して製作した桁を現場で接合・緊張して一体化。この主桁(120t)を1径間に4本計16本架設し、10月末までに上り線のランプ橋を整備する。現在の進捗率は65%で、主桁間の間詰めコンクリートを打設中だ。

見学に先駆けて、九州地方整備局佐世保国道維持出張所の寺岡岳彦所長が発注者を代表してあいさつ。寺岡所長は、同現場が針尾パイプスの江上交差点の立体交差化に関連して進められ、佐世保市南部の慢性的な交通渋滞緩和の解消に寄与するといった事業概要を説明。また、現場休憩室へのクーラー設置など、業界全体で就労環境の改善を進めていることを紹介した上で、高校生に「現場見学などを通じて興味を持ち、将来は建設業に携わってほしい」と期待した。

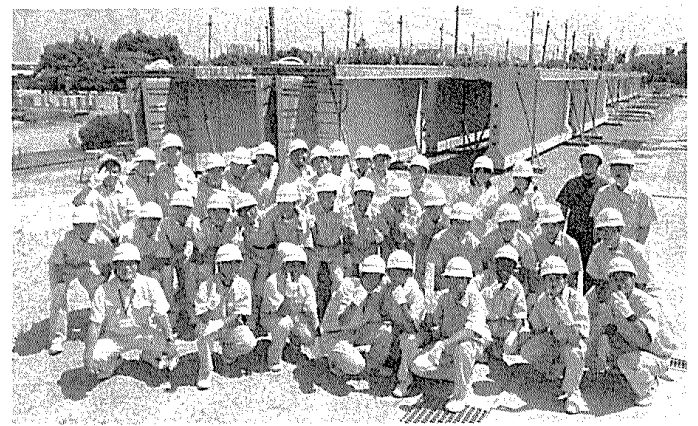
参加者は、栗本氏からこれらの説明を受けた後、現場に移動。実際の現場や作業状況を見るだけでなく、同社が用意したPCケーブルで緊張した板とRC板上に乗って強度の違いを確認したり、鉄筋の結束体験も行った。高校生は、飛び跳ねても破損しないPC板



高校生を前に事業概要を説明する寺岡所長



PC板とRC板の上で強度の違いを確認



工場内のプレキャスト製品(桁)の前で記念撮影

に驚いたり、オリエンタル白石の職員による素早い結束作業に関心の声を上げるなど、見学会は終始和やか。気軽に質問できる雰囲気の中で進められた。

当日は、午前中にオリエンタル白石の福岡工場(大刀洗町)も見学し、PCの歴史や種類、特徴、用途などを勉強。特に模型を使ったプレストレスト原理の説明には参加者から「おお」と大きな声上がるなど、高い関心が寄せられていた。

本紙の取材にに応じてくれた土木科1年の権藤聖良君は「普段何気なく利用している橋や道路が、いろいろな人の手により支えられていることが分かり、本当に大変なんだなあと思った。将来は道路関係の仕事に携わりたい」と、PCの製作から施工までの一連の流れを体感した一日を振り返った。

鳥栖工業高が佐世保で現場見学